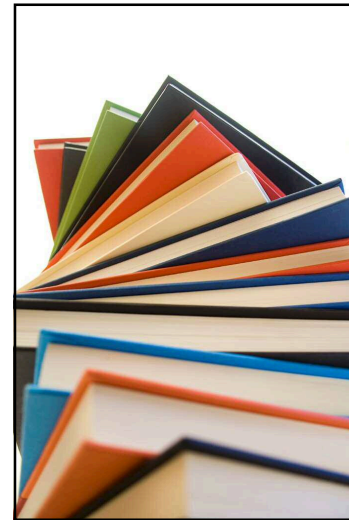


「お嬢さん、よかったら俺を拾ってくれませんか？
咬みません。躰のできたよい子です」
主人公・さやかが樹という青年を家に住まわせるところから始まります。樹は家事万能な重度の植物オタクで、ご近所で野草を積んでさやかと一緒に料理を楽しみます。その中で二人は仲を深めていくのですが、まるで少女漫画のようでも甘酸っぱいです。本の後ろのページに野菜料理のレシピが載っているので作ってみると楽しいかもしれません。

A.Kさん

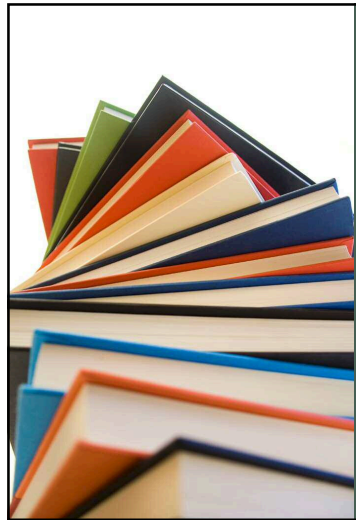
『植物図鑑』
有川 浩



ある女子高で起こった珍事件や変わった出来事を「読者クラブ」の部員が「秘密のクラブ誌」に書き残し受け継いでいくという話です。珍事件を通して、思春期の少女特有の残酷さや激しい感情などが描かれていますが、作者の個性的な語り口によってコミカルで面白いものになっています。「マクベス」など有名な小説の内容に絡めているので本好きな方におすすめです。

A.Kさん

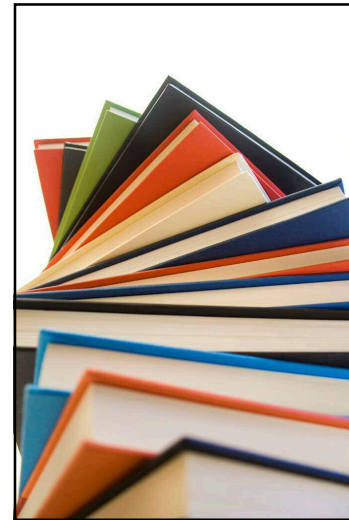
『青年のための読書クラブ』
桜庭 一樹



デリーからロンドンまで乗り合いバスの旅を描いた紀行文。後先顧みず興味のまま時間をたっぷり使う、思いっきり無駄な時間を使うことの喜びが伝わってくる1冊です。これを読むと世界を旅したくなってきました。長期休みを使って旅行に行くことのできる大学生に是非おすすめです。

T.Sさん

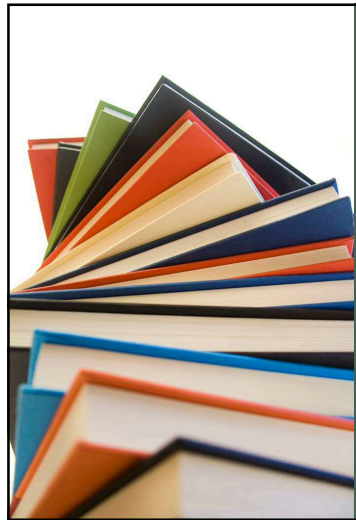
『深夜特急』
沢木耕太郎



近所に住む「むらさきのスカートの女」と仲良くなりたいたい主人公が、自分と同じ職場で働くように誘導し執拗に追いかけていく話です。ストーカーのようで、不気味に感じるかもしれませんが、誰かに憧れを抱いてその人に近づきたいという主人公の気持ちに共感できる人も多いのではと思います、この本を選びました。難しい表現もなく読みやすいのでおすすめです。

AKさん

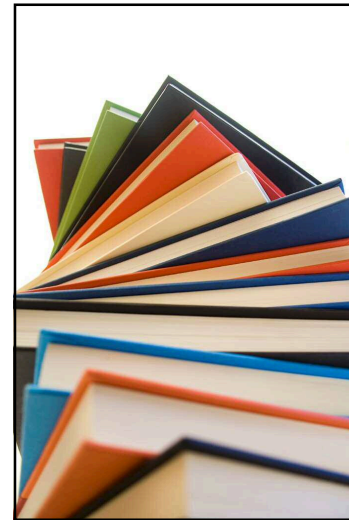
『むらさきのスカートの女』
今村夏子



遺伝子というものに対して多くの人が、いろいろな疑問を抱いて様々なことを発見してきました。単なる知識ではなく、そこに至るまでの歴史を知れば生物もっと楽しくなるかも。

TUさん

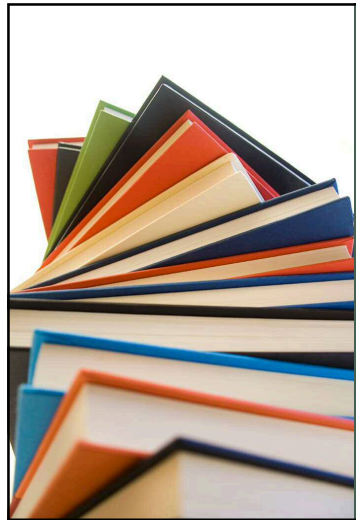
『遺伝子 親密なる人類史
上・下』
シッダールタ・ムカジー



慌ただし新生活が始まりますが、おおいに楽しんでください！そして学生生活や勉強に疲れたなと感じたら、是非この本を眺めてください。天台宗大阿闍梨の筆者の優しい語り口から、自分の立ち位置を見つめ直すきっかけを得られるかもしれません。「息を吸って吐く。呼吸の大切さ。」「人は自然の中で生き、生かされている。」気になる言葉を是非見つけてみてください。

AUさん

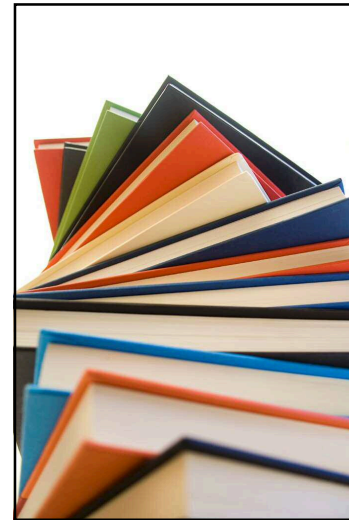
『一日一生』
酒井雄哉



一年生のカリキュラムの大きな山場は人体解剖学だと思います。指定のテキストやアトラスで勉強を進めていながら、理解を補うために私はこの本を参考にしていました。より模式的な図を取り入れたり、筋肉の起始・停止をまとめてくれたり、神経や血管の走行を簡潔な言葉で説明してくれたり。実習の予習復習や試験対策にも重宝すると思います。

AUさん

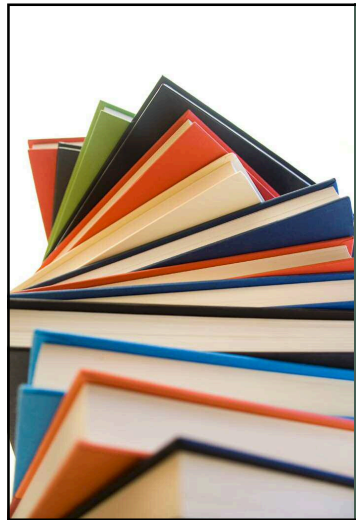
『カラー図解 人体の正常
構造と機能』
酒井雄哉



“数字について考えるのは難しいとあきらめる必要はない”乳がん検診などを例にリスクを正しく知り、どうしたら分かりやすく伝えることができるかという本です。統計は面白くないなと思っている人やこれから統計を勉強する人におすすめです。

TUさん

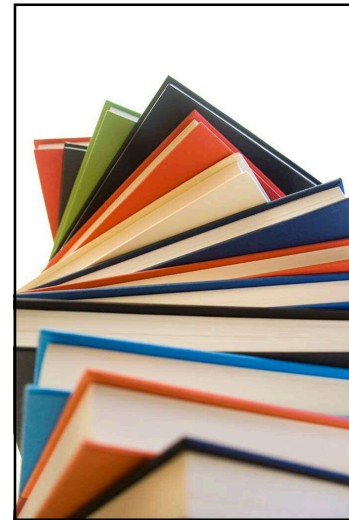
『リスク・リテラシーが身につく
統計的思考法
初歩からベイズ推定まで
(数理を愉しむシリーズ)』



スラムダンクを描いたことで有名な井上雄彦先生が作者です。
主に車いすバスケットボールを題材に、障害を持った選手とその周りの人々の生き様や考えが当事者の目線で「リアル」に描写されています。
そして、障がい者であろうとなかろうと、今を全力で生きることの重要性を痛烈に伝えています。この漫画を読むことで、いま生きているという現実、つまり「リアル」と、その儚さを改めて考えるいいきっかけになると思います。（なお、出版から20年以上、まだ完結していません。）

KMさん

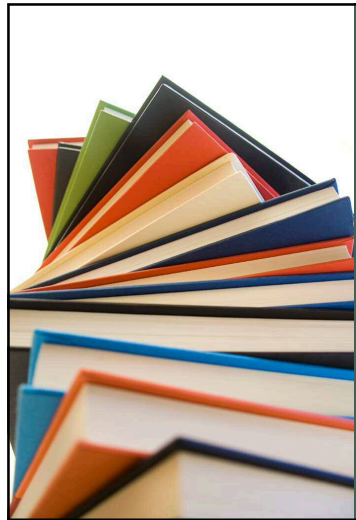
『リアル』 井上雄彦



がん患者に向き合う精神腫瘍医の先生の診療経験に基づく1冊です。
限りある性を意識することで、自分の感情に向き合い、与えられた1日1日を大切に過ごすことができる。死を意識することで、むしろ焦りが募る面もあるかもしれませんが、この本に登場する多くの患者さんの体験談から気づかされることがありました。病氣に向き合う患者さんだけでなく、昨今の世情もあり、多くの人が、各々不安や問題を抱えているかと思います。私にとっても、自分の生き方や存在価値について見つめ直すきっかけになりました。そう書くと堅苦しい本のように思われるかもしれませんが、親しみやすい文章でえがかれていきますので、一気に読めて後々まで心に残る一冊かなと思います。

UAさん

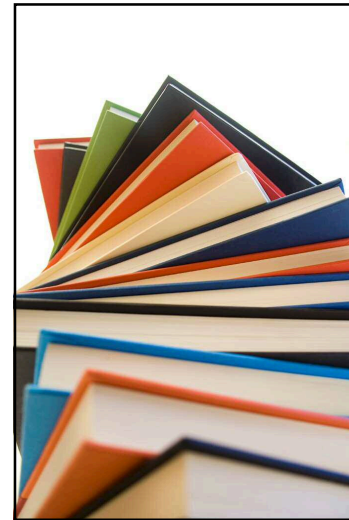
『もしも一年後、この世にいないとしたら。』 清水研



この物語の主人公である小和田くんは「僕は人間である前になまけものです」と豪語する堂々たる怠け者。そんな彼が休日を正義のために街中を忙しく駆け回るぼんぼこ仮面の後継に指名されてしまいます。どうして小和田君なのか。そしてぼんぼこ仮面の正体と目的は？目を留められた怠け者諸兄、京都を跳ね回る魅力的な登場人物たちと美しくも軽妙な文体が織りなす森美登美彦ワールドを覗いてみませんか？

MYさん

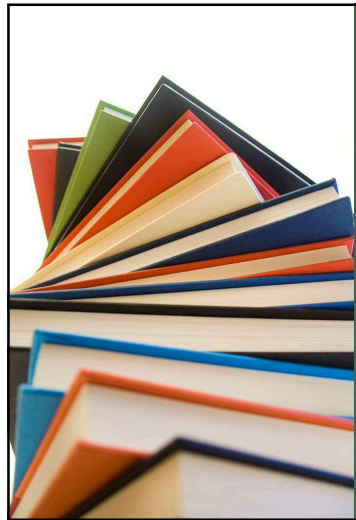
『聖なる怠け者の冒険』 森美登美彦



初めて読んだ時の感想は、『濃い。』夜テレビを付けたら流れていたヒューマンドラマのように、とにかく出る人みんなやけに人間臭い。1話「母の記憶」施設に入所した母への面会、ということで医学生にもとつきやすい話。数ページ、ほんの数分で読めてしまう。最後の一行、とりあえずそこまで読んでほしい。
ただここで受けた衝撃は、何年経っても忘れられない、そんな本です。

M.Iさん

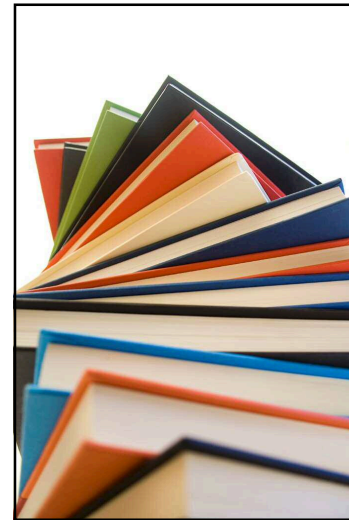
『幸福な生活』 百田尚樹



アニメ化・映画化もされた有名漫画。
 コロナ禍ということで将来に悩む人も少なくないと思います。
 私もその一人。
 適当に選んで進学した農業高校で主人公はさまざまな
 「非常識」に出会い、そして学んでいく。パイタリティーに溢
 れた荒川作品。元気が出ます！
 今某所で話題な競馬の話もできます！
 (個人的にはマロン号がゴールドシップに似ている気がする
 のですが、モデルなのでしょうか?)

M.Iさん

『銀の匙』 荒川弘

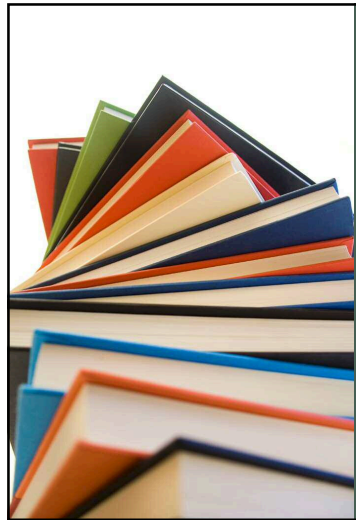


鋼の錬金術師、銀の匙、アルスラーン戦記等、数々の有名
 作品を残す漫画家。そんな荒川さんの実家での農家
 時代、そして現在に至るまでの様々なエピソードが詰ま
 った作品。2021年現在で6巻まで出ています。
 荒川作品が好きな方は勿論、農業に興味がある方、と
 りあえず暇潰し、にもお勧めの1冊です。ゆる〜い絵と飛び
 出す衝撃エピソードに夢中になること間違いなし！

「俺にできることはおまえにもできる」
 1番好きな台詞です。

M.Iさん

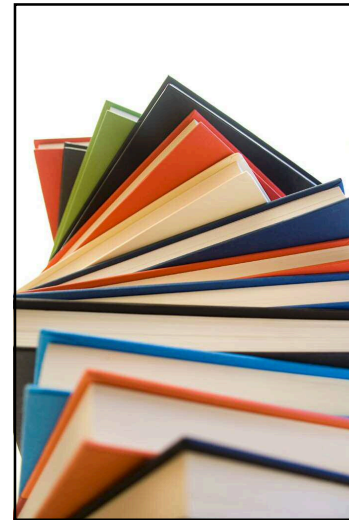
『百姓貴族』 荒川弘



うる星やつら、めぞん一刻、らんま1/2、犬夜叉、境界の
 RINNE、MAO…
 どれかは必ず知っているはず。高橋留美子さん作品が好
 きなら読んでみてほしい3冊。複数作品がアニメ化もされ
 ています。イチオシは犬夜叉のベースになった「炎トリッ
 パー」
 「漫画より楽しいことがあるものなら、是非教えてほしい。」
 その言葉に違わぬ才能と情熱の塊が詰まった短編集で
 す。

M.Iさん

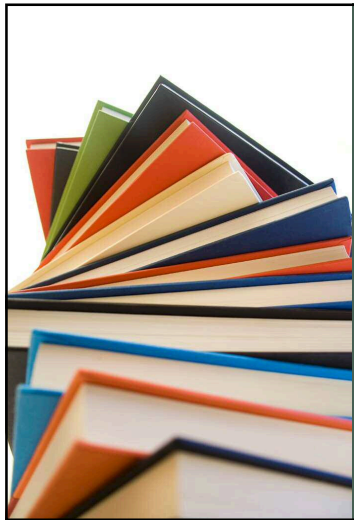
『るーみっくすわーど』 高橋留美子



解剖とか、とかくその辺が苦手。覚えてもなんか忘
 れちゃう。そんな人は是非読んでみて下さい。
 教科書とか読んでるとつまり？と思うことがあるので
 すが、この本を講義を収録した読み物、図解ありと
 いうこともあってゆっくり読みながらなんとなく頭の中
 に情報が入りやすい。テスト前の暗記、というよりは
 解剖学に苦手意識を持っている人に。

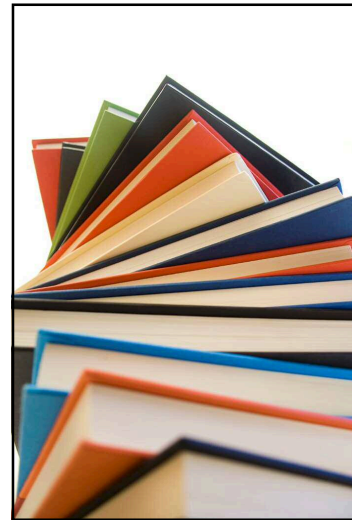
1、2年といわず、全学年いつ読んでもお勧め。
 M.Iさん

『医療職をめざす人の解剖 学はじめの一步』 坂井建雄



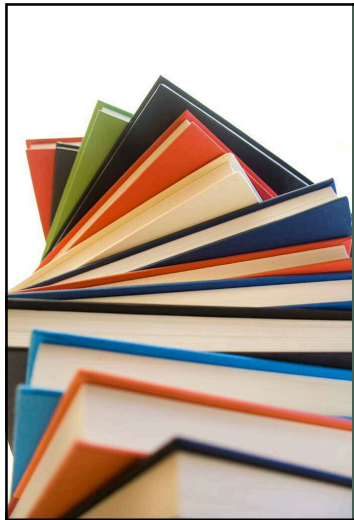
鍛冶の里で育った少年キリトは、王宮の命により、史上最古の図書館に暮らす「高い塔の魔女(ソルシエール)」、声を持たない少女、マツリカに仕えることになります。図書館とはなにか、言葉とは何か、本とは何かマツリカとキリトの語りや心情から、言葉の魅力を改めて気付かされます。
S.Hさん

『図書館の魔女①～④』
高田 大介



この物語の主人公の少年ケイは車やラジオなどと会話をする不思議な能力を持ち、アイスランドで探偵をして生計を立てています。絵がとてもきれいで、アイスランドを旅しているような感覚になります。ケイの弟、未知嵩も不思議な能力を持っており、彼を巡る不思議な事件が起こり、物語に引き込まれます。
S.Hさん

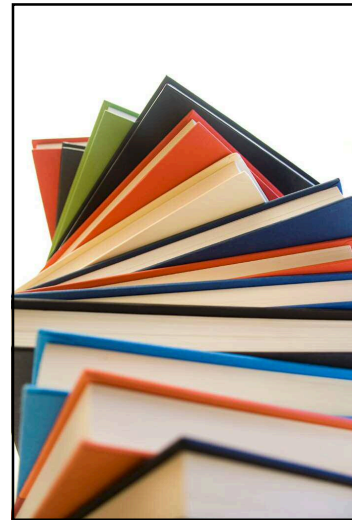
『北北西に雲と往け』
入江 亜季



愛は努力とのことです。

M.Fさん

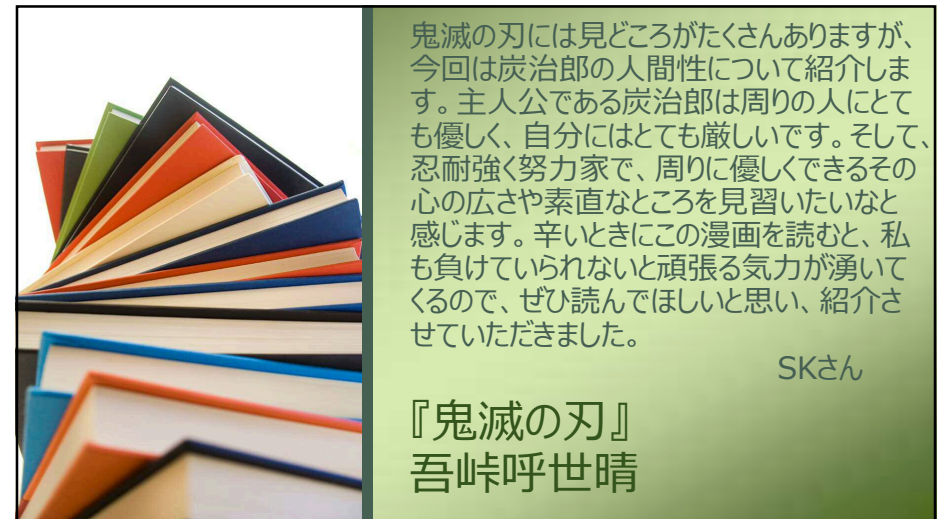
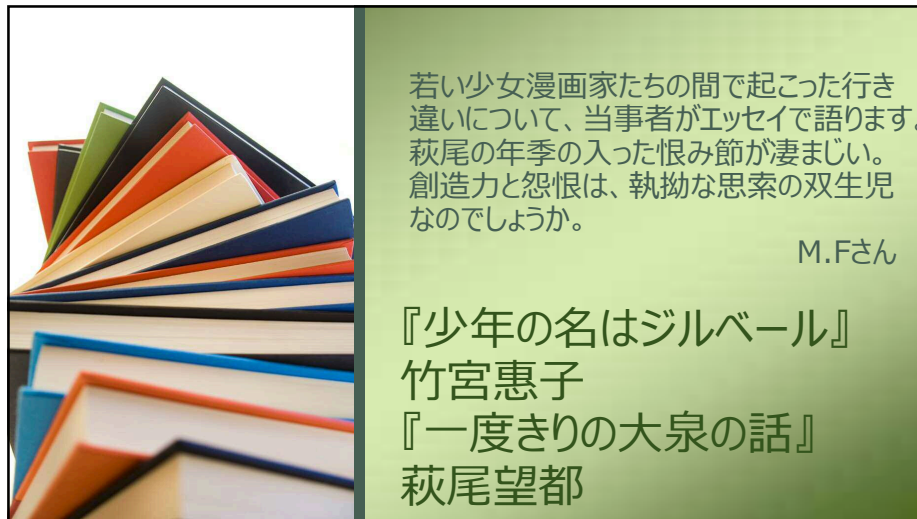
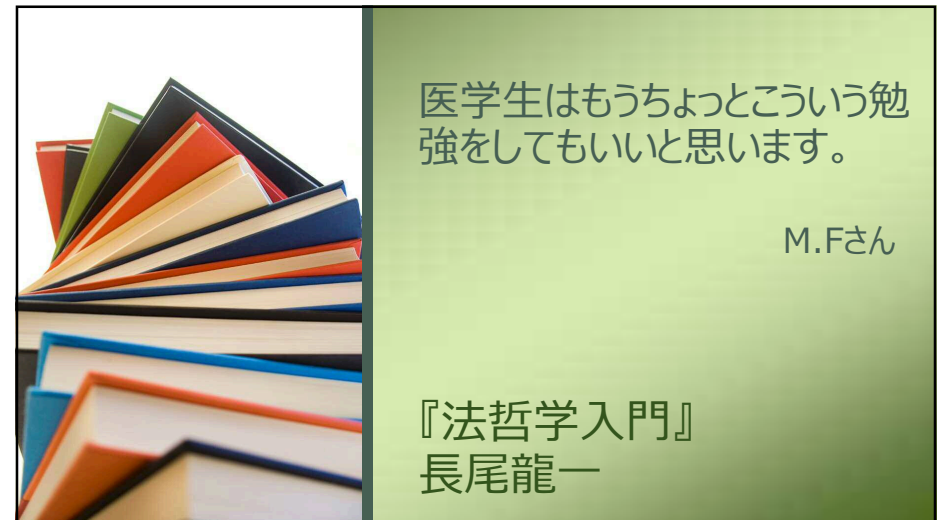
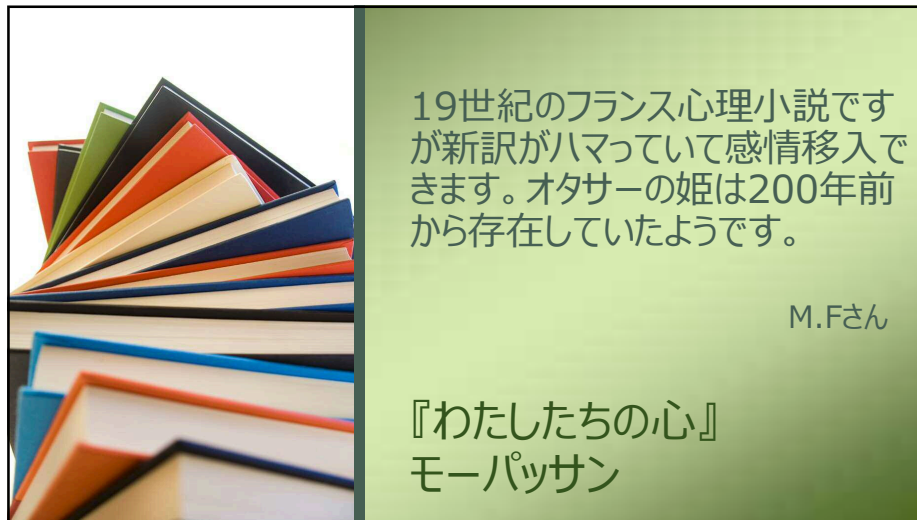
『愛するということ』
フロム

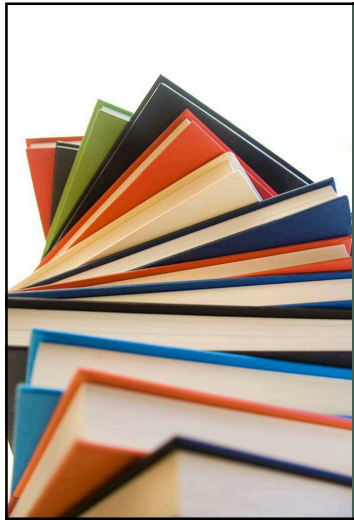


保身の滑稽さを感じながらも、それ自体語りの本質であることに気づきます。

M.Fさん

『グロテスク』
桐野夏生





特に最初の1冊はタイトルとその表紙で読むことを避けている人もいるかもしれない。同じ考えの人がいたら是非、とりあえず手にとって読んでみてほしい。絵はシンプルで、刺さる人には刺さるエッセイ漫画です。孤独、自分にとっての母の存在、セクシュアリティについて、何か受け取れるものがあるはずです。

MIさん

『さびしすぎてレズ風俗に行きましたレポ』『一人交換日記』『現実逃避したらボロボロになった話』

永田カビ